

ファンドを通じたベンチャー・中小企業支援の現状と課題 — 東京都の取組み —

磯田 篤岐 CMA

目 次

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. はじめに | 6. 東京都の出資プロセス |
| 2. 変化の時代を前にして | 7. 官のガバナンス |
| 3. ファンドの社会的意義 | 8. ファンドを通じた支援事例 |
| 4. 官民ファンドとは | 9. 終わりに |
| 5. ナローパス | |

本稿では、ベンチャーファンドやプライベートエクイティファンドが産業育成において果たす役割と、東京都がファンドへの出資を通じた中小企業支援を行う狙いや期待する効果、実行に当たって直面している現状や抱えている課題などについて説明する。

1. はじめに

当証券アナリストジャーナル誌への寄稿に当たっては、メディアでの官民ファンド批判が強い中で書くことへのためらいがあったが、官民ファンドに対する世間の見方と実際の運用との間には大きな乖離があることは日頃から感じており、更に官民ファンドではないが、類似の業務をしている者が発信することの意義も考え筆を執ることとした。

本稿では、行政によるベンチャーファンド、プライベートエクイティファンドへの出資事業が、

わが国の経済発展においてどのように有効かについて、実務の視点から検証と解説を行った。

2. 変化の時代を前にして

高度成長期に20年、30年後の社会がどうなっているのか予想するのは、今よりずっと簡単だっただろう。

今は、インターネットの普及に加えて、急速に進歩するAI（人工知能）の技術とコンピューターの演算処理能力により、現存する職業の多くが機械に取って代わられる可能性がある。



磯田 篤岐 (いそだ あつき)

東京都産業労働局金融部ファンド担当。上智大学経済学部経営学科卒業。中小企業診断士。日系・欧米系の金融機関にて外貨建てCLOなどのストラクチャード商品、海外プライベートエクイティファンドなどのオルタナティブ投資商品の組成・販売業務に従事。その後、国内のベンチャーファンドへの投資業務を経て、現在は、東京都庁にて国内のベンチャーファンド、プライベートエクイティファンドへの投資業務に従事。